さぬきのり染め探検隊　平成19年

美しいもようをどうやって作っているのか

のり染めとは･･･

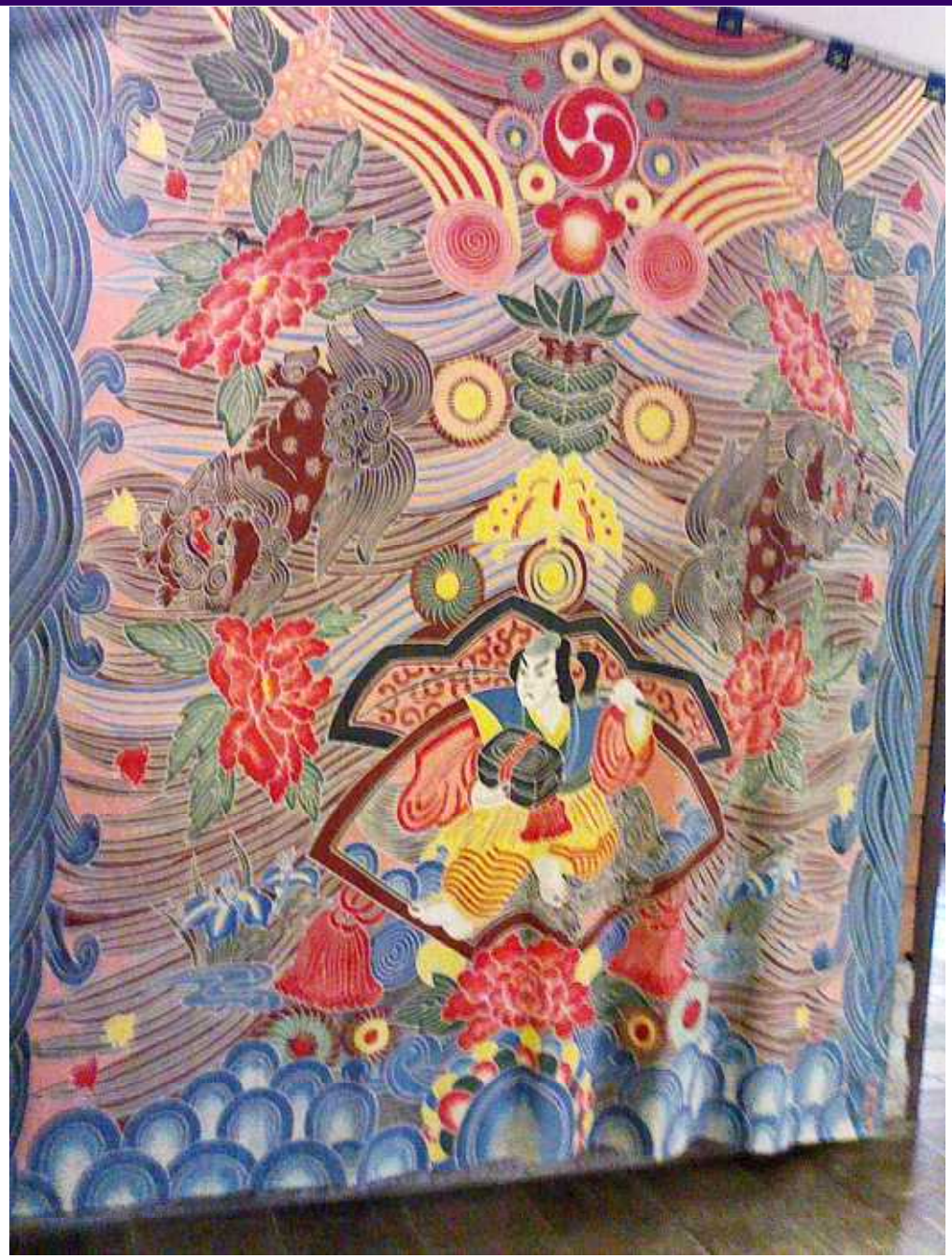
　のり染めは，もち米からできた**のり**を使ってもようをつけていきます。のりを置いた所は，染まらないので，生地のまま白く，いろいろな模様ができます。

のり染め以外の染め方　～しぼり染め～

　しぼり染めには，だいたい３つの方法があります。
①ビー玉を布に入れてゴムで結ぶ方法
②そのままゴムで結ぶ方法
③割りばしを布の外側にはさむ方法

　むすんだりはさんだりした所が白くなり，星や波の模様ができます。わたしは，輪ゴムを使ってやってみました。輪ゴムで結んだ所が白くなってきれいな白い輪の模様ができました。

**　このように，染め物は，わりばしやビー玉，わゴム，のりなど身近なものを使って染まらない所を作り，模様を作っていることが分かりました。**



栗林公園内讃岐民芸館に飾られている大川原静雄さんの油たん

用具や材料のひみつをさぐろう

のり

　のりは**もち米**から作られています。のりをぬるのは，ぬったところを**染まらなく**です。
　もち米でできているので**自然にやさしい**けど，われたり液につけすぎるととけたりしてしまいます。もち米がもちを作るだけでなく，のりにもなるのがすごいです。

のりづけ後，わくを上げているところ

おがくず

　おがくずは，**のりが他のものに付かないように**ふりかけて使います。のりはもち米からできていて割れやすいのですが，おがくずには，**のりが割れてしまうのを防ぐ**働きもあります。

おがくずをかけているところ

わく

　わくは，のりをつける時に型の上に置いて使います。木のわくにあみを張ったものです。このわくを使うと，切った所にきれいにのりが入っていきました。

のりをつけるヘラ →

↑　しんしを布にさしているところ

しんし

　のりをつけた布の四すみにしんしの針をさします。しんしは，竹でできています。しんしの良い点は，しわができないように布をのばしてバランスをとって乾かすことができるところです。

藍の葉

　藍染めの布は，防虫効果があり，昔はミイラに巻いていたそうです。今もジーンズに使われていますが，もともとは，虫よけやヘビよけになるので使われていたようです。中国では，藍の葉を薬にも使われたそうです。このように，藍の葉は古くから人々の役に立っているのがすごいと思います。

　生の葉をそのままたたいても，葉をミキサーでジュースのようにしても，乾燥させた後発酵させた液体を作っても染められますが，それぞれ色が違うのがふしぎです。

←藍の新芽

↑たたき染め

←　生の葉のジュースで染めたもの

のり染めの道具や材料は，代々伝統的に使われているものばかりです。自然のものでできていて，どれもその特長をうまく生かして使っています。

のり染めの方法～オリジナルハンカチを作ろう～

型作り

①下がきをする。
②画用紙にかく。
③ブリッジをかけながらかいた所をカッター で切りぬく。
　カッターがよく切れるので気をつけて絵を切りとる。

のりづけ

①　板の上にしわにならないように布を広げる。
②　その上から型を置く。
③　木のわくにあみをはったものを布に合わせて上から置く。
④　へらを使ってのりを平らになるようにのせる。
⑤　のりがついたらそっとわくと型を外す。
⑥　四すみにしんしの針をさし，布をピーンと張る。
⑦　おがくずをのりをつけた部分にかけて乾かす。

染める

①　藍がきれいに染まるために一度水にくぐらせる。
　　金魚すくいのように横から静かに入れて横から出す。
　　上に持ち上げると，水の重みで布がしんしから外れてしまう。
②　かめにハンカチをつけて２０秒数える。
　　英語で数えると，ゆっくり数えるのでよく染まる。
③　かめから出し，20秒間空気にふれさせる。
　　このとき，だんだん色が変わるのが分かる。
　　染めるときと同じように20秒数える。
④　②をくり返す。
⑤　しばらくかわかし，空気にふれさせる。
⑥　②～⑤をあと２回ずつ行う。

のりを外す

①　湯をはったたらいの中に入れ，手でのりを外す。
②　水につけて洗う。
③　色が落ちないように色止めの薬を付ける。

乾かしてアイロンをかけたら出来上がり！

ひとつひとつの作業に意味があり，ていねいにしなければいけません。

← のりづけ

↓ しんしをつける

↑ かめにつける

↑ 洗ってのりを外す

← できた！

大川原染色本ぽの歴史

江戸時代から続く店

　大川原染色本ぽは，１８０４年から２００年以上も続いています。初代社長は富蔵さん，二代目社長は八百蔵さん，三代目社長は久次郎さん，四代目社長は熊造さん，五代目社長は計一さん，六代目社長は静雄さん，七代目社長は誠人さん（１９９８年新社長に就任）です。
　わたしたちは，静雄さんや誠人さんに藍の育て方や染め方を教わりました。お二人は，アメリカの大学で染色を教えたり栗林公園で実演をしたりして，さぬきのり染めの良さを広げることもしています。栗林公園のさぬき民芸館には，静雄さんの大きな作品(油たん)が飾られています。とても大きくて細かいところもていねいに作られていました。絵や字が上手でないとできない仕事だと思いました。

かめ

　大川原染色本ぽには，大きなかめが３つあります。１メートル以上の深さがあるそうです。ふたを開けると，黒っぽい藍の液が入っていました。その中に布を入れると染まります。これらのかめは，６０年以上大切にされているものです。

染という漢字の成り立ち

　染と言う漢字には，意味があることを教わりました。
「さんずい」･･･水を表しています。
　　染めて乾かした後，水でよく洗います。
「木」･･･植物を表しています。
　　昔から藍などの植物を使って染めています。
「九」･･･九は，一の位で最も大きい数です。
　　何回も染めるという意味がこめられています。

今と昔の染め物の使われ方

　今は，のれんや旗，ハンカチ，Ｔシャツ，ジーパンなどいろいろなものに染めが使われています。
　昔は，獅子の油たんやふろしき，着物などによく使われていました。
　どちらも身の回りのものばかりで，染め物が人々の生活に欠かせないものだと分かります。

大川原染色本ぽは，昔からひきつがれてきた歴史あるお店で，伝統を守っています。

↑　大切なかめ
深いなあ！　→

誠人さんは落ちたことがあるそうです。

静雄さん，誠人さん　ありがとうございました！